

子どもの安全
見守りに尽力

故根城好雄さん(八戸)寄贈



根城 好雄さん

「おはようございます！」。八戸市の長坂保育園（川口司園長）では登園日の朝、あいさつ当番の園児が玄関で大きな声を響かせる。当番が肩に掛けた黄色いたすきは、園児の保護者だった故根城好雄さん＝同市＝がプレゼントしたものだ。一本一本には生前、地域で子どもたちを見守り、あいさつを大切にしていた根城さんの優しさが込められている。（井上周平）

勤める傍ら、20～30代の頃から地元・根城地区の子ども会役員や交通安全指導隊員を長く引き受けた。妻の臺代江さん（79）は「身内から見ても、本当に生真面目で他人思いの人。児童の登下校の見守りを欠かしたことはなかったし、交通安全教室にも力を入れていた」と人となりを述懐する。

根城さんの初孫で現在大学生の将貴さんも通った同園は長年、園児が周囲と元気良く触れ合えるよう、朝のあいさつ運動を実施。15年前からは根城地区連合町内会の活動の一環で、毎年9月に地区内の学校や公園の沿道に立つあいさつ運動も展開し、住民の笑顔の輪を広げている。

あいさつのたすき 今も

登下校の見守りを続けてきた経験から、「あいさつができる子は交通マナーも守れるようになる」が持論だった根城さんは、町内会活動を通じて園内での取り

3年でぐたびれてしまつた。川口園長は「それまで

はあいさつを恥ずかしがる子も多かったのに、皆が張り切って当番を務めるよう

になった」と語る。

ちの人気的となり、2～3年でぐたびれてしまつた。川口園長は「それまで

はあいさつを恥ずかしがる子も多かったのに、皆が張り切って当番を務めるよう

になった」と語る。

同園には、将貴さんら計6人の孫が通い、全員が相手のたすきを掛けあっていきました。

スケート競技に励む孫たちの送迎もするなど、成長を楽しみにしていた根城さんは2011年、73歳で突然この世を去った。

周囲の悲しみがまだ癒えない時期のある日、喪失感にさいなまれていた臺代江さんを、登園に連れていた孫娘の何氣ない一言が慰めた。「きょうは他の友達が（あいさつの）お当番をしてくれるんだよ」

夫の優しさや理想が園児に受け継がれていることを知った臺代江さん。当時を振り返り、「今なお大事に使ってくれているのは本当にありがたい。いろいろあってたけど、夫はいい人生だったと思う」とほほ笑む。

川口園長は、思いがこちの姿に目を細めながら、「これからも根城さんの好意に感謝し、あいさつ運動を続けたい」と誓う。



根城好雄さんから贈られたたすきを掛け、元気良くあいさつする園児＝2日、八戸市の長坂保育園

6人の孫が通い、全員が相手のたすきを掛けあっていました。スケート競技に励む孫たちの送迎もするなど、成長を楽しみにしていた根城さんは2011年、73歳で突然この世を去った。周囲の悲しみがまだ癒えない時期のある日、喪失感にさいなまれていた臺代江さんを、登園に連れていた孫娘の何気ない一言が慰めた。「きょうは他の友達が（あいさつの）お当番をしてくれるんだよ」夫の優しさや理想が園児に受け継がれていることを知った臺代江さん。当時を振り返り、「今なお大事に使ってくれているのは本当にありがたい。いろいろあってたけど、夫はいい人生だったと思う」とほほ笑む。川口園長は、思いがこちの姿に目を細めながら、「これからも根城さんの好意に感謝し、あいさつ運動を続けたい」と誓う。